



〈宇宙へ飛び出せ〉ビデオシリーズ第5巻
「私たちの太陽系」

企画 文部省宇宙科学研究所
制作 株式会社イメージサイエンス
発売 財団法人宇宙科学振興会
VHS 26分、定価 3,300円

読み物

お薦め度
☆☆☆☆★

このあいだ「私たちの太陽系」というビデオを見せてもらいました。見終わって感じたのはとても欲張ったビデオだなあとということです。たった25分の間に、太陽系の家族のことから誕生のこと、そして探査計画まで入っているのです。

僕たちは学校で1年の時に天体について習いますが、教科書は星の動きや地上からの見え方が中心であり面白くありません。だから、こういうビデオを見るのはとても楽しいです。

面白いと思ったのは、地球にもいん石が落ちたクレーターがたくさんあるということ。それにいん石が落ちてくる映像です。思わず先生に「これってCGですか？」って聞いてしまいました。

CGって言えば、このビデオにはたくさんのCGが使われていてどれも良くできているんだけど、見ているうちにどれがCGでどれが本物の映像か、わけがわからなくなります。火星や金星の上空を飛ぶ映像は前にも見たことがあって、僕は、なるほど人類は火星や金星に行ったことがあるんだ、と思っていました。でも、今回ビデオを見ながら先生が「これは無人探査機のデータを基にCGで作ったんだ」と言ったのでびっくりしました。

天体の色についてもそうです。土星の環の写真は学校で使う資料集にもあって、前に先生が「これはコンピュータが派手に色をつけたんだ」と言ってたし、屋上で望遠鏡で見せてもらったこともあるから本当の色を知ってるけど、分子雲とかの赤や緑の色ってどうなんでしょうか。あんなきれいな色なら一度望遠鏡で見たいな。

分子雲っていえば、L-1551のIRS-5のまわりに円盤状の構造が見えるってビデオは言ってたけど、全然円盤に見えませんでした。画架座のベータ星

の方は真ん中に丸い円盤がはっきり見えたのでよくわかりました。

そういえば「馬の頭」っていうのもどころがそうなのがよくわかりませんでした。全体的にただ映像をだだら流すのではなく、金星の時みたいに「大気を透かしてみた金星表面」のような字幕や、場所を示す矢印をたくさんつけてほしかったです。

こういう宇宙関係のビデオって、いつもアメリカの映像ばかりなので、日本のロケットや研究所が出てきて面白かったです。でもアメリカよりチャク見えたのが少し悲しい。これから日本が打ち上げる予定の探査機の話のところは、日本も結構やるな、と思ってうれしかったです。でも女子の中には「ロケット打ち上げるより環境保護や福祉にお金をかける方がいい」と言うのがいて、残念ながら僕は説得できませんでした。

いろいろ文句もありますが、このビデオはシリーズの最初の頃と比べてずっと良くなったと思います。初めの頃はNHKの3チャンネルの番組とそっくりでしたから。でも一つだけ、最初と最後に子供が出てくる場面はやめてほしい。みんな見ていて「ダッセー！」と言っていました。同じ年頃の子供を出せば親しみが出ると思ったのかもしれませんが、逆効果です。このシーンのおかげで全体がうそ臭くなって残念です。

このビデオを見終わって、先生がアンケートを取りましたが、変な質問がありました。「太陽や地球などの天体は生きていますか」だって。「誕生」したり「家族」を持ったり「死」んだりするんだから、太陽も地球も人間や犬と同じ生き物に決まっています。

大越 治 (世田谷区立新星中学校教諭)